

Position Talk

AI時代の英語力とは： OEPの視点から

AIは言語力を代替するのか？

Presenter 愛知工業大学

藤村 敬次

2026

3月14日(土)

AIと大学英語教育研究会
第2回研究大会

出典：藤村敬次（印刷中）．JUEMUN2025 botの構築：GPTsを利用したAIアプリによる英語運用力（OEP）の育成．

吉田信介（編），松岡弥生子（監修）『AIと大学英語教育：次のステージへ』金星堂．



問題提起：AI常時利用時代に何が揺らいでいるか

従来の評価・授業設計の揺らぎ

生成AIが常時利用可能な環境下では、課題が「本人の力」によるものか判別困難。従来の成績評価基準が機能不全に陥りつつある。

「監視」としてのAI運用の弊害

AI使用＝「不正」とみなし、利用の有無を調べることに教員が疲弊。学生との信頼関係を損ない、学びの質向上に直結しない。

AI使用に関する相反する視点

懸念：批判的思考・創造性の低下、倫理的問題、情報の精度 (Zhai et al., 2024)
期待：学習成果、高次思考力の向上、個別最適化 (Wang & Fan, 2025)

本発表の2つの問い

- 1 「何をもって英語力とするのか？」
- 2 「AIをどう使わせるのか？」

Critical Debate Point

教養としての英語

自己研鑽・認知能力向上重視
「伝統的なテストで測れる英語力に価値」

VS

実用としての英語

実用重視
「使用場面において自分の意志を伝えられ、相手の意志が分かれば良い」

Current Paradigm Shift

これまでの常識

AIを使わず、自力だけで読み書き・発話できる能力を測定

→ これからの問い

ツール使用を前提とした新しい能力定義が必要ではないか

OEP（Operational English Proficiency）とは

📦 定義と特徴

英語運用力 (OEP) とは、ICTツール（機械翻訳・生成AI等）を「自己の能力の一部」として統合し、課題達成のために英語を運用する能力。

理論的背景と前提

- ✓ **常時接続社会の前提**：翻訳・AI・音声対話がいつでも使える環境での言語活動を正当化。

i 卒業後の学生が直面するAI使用の実態：企業の9割(n=310)で生成AI導入済み・検討中・今後検討
-約7割がAIリテラシーやスキル不足が最大の課題
(野村総合研究所, 2025)

- ✓ **構成主義的学習観**：知識は他者や道具との相互作用で構築される。
Vygotsky (1978)
- ✓ **常設のScaffolding (足場)**：AIを「撤去すべき補助輪」ではなく、「常時併走する外付けの脳」として位置づける。
- ✓ **評価観の転換**：「純粋な英語力」から「ツール活用を含めた課題解決力」へ。

Levy (2009)

Fujimura (2024)

Old Paradigm

従来の英語力観

個人の脳内知識のみに依存
純粋な産出能力を測定



パラダイムシフト：道具の統合

New Standard

OEP (Operational English Proficiency)

個人の能力 + **ICT/AIツール**
= 統合的な課題解決能力

AI Tools

Scaffolding (AI) は撤去せず、能力の一部として機能し続ける



これからのAI英語教育：使用類型と教授法の視点



Implication for Pedagogy

「依存型」を回避し、「補整型」「練習型」へ導く
新しい教授法・タスク設計の開発が不可欠



実践事例：JUEMUN2025 bot（GPTs）

📖 OEPと5つのAI使用類型を統合した実践的授業設計



会議プロセス 学習支援

探索型

- 複雑な議事進行や非公式協議の流れを段階的に提示
- 「今どの行動が必要か」をリアルタイムでガイド
- ✔ 対話を通じて未知のプロセス知識を獲得



スピーチ編集・ 生成支援

創発型

補整型

- 文法・語彙だけでなく、構成や説得力の向上を提案
- 担当国の立場に基づいた論理展開をサポート
- ✔ AI生成文に自らの意見・情報を追加・修正（補整）



交渉表現・ 即興対話支援

練習型

- 状況別に適切な外交的フレーズを即座に提示
- テキストまたは音声ベースでの「壁打ち」練習
- ✔ 対話そのものを他者との練習代替として活用

📊 実践結果

- 参加状況：29名中20名が会議参加
- 評価体系：
 - ・ JUEMUN Bot課題：20%
 - ・ 授業内・会議内スピーキング：50%
 - ・ ポジションペーパー：30%（作成プロセス重視評価）

💡 示唆：依存型回避のメカニズム

- プロセス可視化：会話履歴URLの提出により、思考プロセスを確認
- 能力の多面的評価：AI生成物の質ではなく、それをどう補整し、実践でどう運用したか（独自性・即興性）を評価することで、依存型利用を抑制し思考力を担保

まとめ：議論の出発点と次の一歩

Proposal & Design



目標・評価の再設計（「実用としての英語」を前提として）

- ✓ **OEPを中核に：**「道具使用」を前提とした到達目標の設定
- ✓ **プロセス評価の重視：**成果物だけでなく、意思決定・内省・修正履歴・実際のパフォーマンスを評価の軸とする



授業設計指針

- ✓ **Scaffolding：**AIを活用して高次の思考力（分析・評価・創造）へ到達させる
- ✓ **課題再設定：**AIがカバーできない範囲の成果の評価を高める。

Future Directions

次の一歩



OEP評価指標 (Rubrics) の整備



AI倫理・リテラシー教育の統合



能力変容の長期的・定量的検証



Discussion Question

AIは、人間の言語能力の
何を代替し、何を**拡張**するのか？



参考文献 / References

📖 日本語文献

藤村敬次（印刷中）．JUEMUN2025 botの構築：GPTsを利用したAIアプリによる英語運用力（OEP）の育成．吉田信介（編），松岡弥生子（監修）『AIと大学英語教育：次のステージへ』金星堂．

野村総合研究所（2025）．IT活用実態調査（2025年）．
https://www.nri.com/jp/news/newsrelease/20251125_1.html

🌐 English References

Fujimura, K. (2024). *Developing an active learning course for low-proficiency English learners in Japan: A case study of Model United Nations to enhance communication skills* (Doctoral dissertation, Kyoto University). Kyoto University Research Information Repository. <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/288793>

Levy, M. (2009). Technologies in use for second language learning. *The Modern Language Journal*, 93, 769–782.

Vygotsky, L. S. (1978). *Mind in society: The development of higher psychological processes*. Harvard University Press.

Wang, X., & Fan, Y. (2025). The effects of ChatGPT on students' learning outcomes: A meta-analysis. *Computers & Education*, 205, 105872.

Zhai, X., et al. (2024). A systematic review of AI in education: Challenges and opportunities. *Educational Psychology Review*, 36(1), 12.